

令和 7 年 1 月 24 日（金）
Web 会議システムによる開催

令和 6 年度 第 2 回 練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進委員会

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・本委員会は公開であり、傍聴人は本日 2 名である。
- ・第 1 回の委員会で、昨年度の教員の勤務実態を報告するとともに、今年度中に改定を予定している「練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進プラン」について事務局案を示した。
- ・本日、第 1 回の委員会でいただいたご意見および 7 月以降に教育委員会で協議した内容を踏まえた案を再度提示する。
- ・委員よりご意見をいただくとともにご承認いただきたい。

3 協議

(1) 練馬区立学校（園）における働き方改革推進プラン（改定）について

○事務局の説明

- ・資料 1 に基づいて説明

○主な意見

- ・（中学校）管理職として、教員の勤務実態を把握しているが、昨年度と比べて 7 月と 12 月の時間外在校時間は確実に減っている。通知表の所見が年間 1 回になったことによる影響が大きい。
- ・（中学校）部活動の位置付けが難しい。教員が部活動を担うのであれば、サポート人材をいくら配置しても時間外在校時間は減少しない。部活動指導員等の配置により、助かってはいるが、地域移行等の話が進まないとなかなか改善できないのではないか。
- ・（幼稚園）先生方の時間外在校時間は減少したが、行事前はやはり遅くなる。本改定プランの中では、幼稚園教員のデータがない。新たに、調査をかけるのではなく、区職員のシステム等からデータを洗い出せるとよい。
⇒現在、幼稚園の在り方についての検討を進めている。それと合わせて、働き方改革についても考えていきたい。システムによるデータの洗い出しについては、確認する。
- ・（幼稚園）会計年度任用職員が多く、シフトやシステムの管理などで副園長の業務が多い。
- ・（小学校）若手教員が担任業務を担う中で、校務分掌の負担軽減等をしながら対応している。副校長に関しては、主幹教諭および主任教諭等のミドルリーダーへの負担軽減を図る中で、副校長業務の補佐を行うことができるのではないか。

- ・(小学校) 教員は、会計処理に負担を感じている。区では、そのあたりのサポートは検討されているか。
⇒専属のサポートスタッフの配置や公会計処理の業務委託について、都の動向を踏まえながら改善に向けて検討を進めたい。
- ・(中学校) 学校施設の開放事業のあり方に関する検討については、ありがたい。これが進むと、副校長業務の改善につながる。
⇒今後、方向性を提案していく。
- ・(中学校) 「新規」や「充実」という文言があるが、「拡充」という文言の使用も考えられる。
- ・(中学校) 部活動は非常に大きな位置付けである。部活動指導員の配置は、非常に大きい。地域移行が進まないのであれば、部活動指導員を拡充するとよい。
⇒次年度の予算では、全校に部活動指導員を配置する
- ・(中学校) 部活動指導員の配置は、非常に効果的である。本校では、兼部可能なトレーニング部に部活動指導員を配置し、それぞれの運動部活動参加者はウォーミングアップとしてトレーニング部で活動する。教員がその間に業務や会議を進めることができる。
- ・(小学校) コンサルタントの取組の動向に注目したい。教科担任制の推進については、小規模校において、会計年度任用職員の増員等もご検討いただきたい。
- ・(中学校) 部活動の一部クラブ化を検討している。土日は、教員が参加せず、コーチを招聘し、指導を進めるという取組である。課題は費用である。
⇒当面は、休日の部活動に教員が関わらなくて済むような検討を進めたい。
- ・(中学校) 本校のサッカー部では、土日に参加する生徒から月 1000 円を徴収している。コーチがいることで、教員が部活動に負担なく参加することができている。
- ・(中学校) 部活動指導員の申請について、顧問と親子関係にある部活動指導員だったため、規制の関係で申請が通らなかった。柔軟な対応をお願いしたい。

(2) その他

- ・特になし

4 事務連絡

- ・本委員会は、次年度以降も継続していく。
- ・本改定プランについては、2月5日の教育委員会で内容を確定し、2月中旬の文教児童青少年委員会で報告する。
- ・各学校(園)には、2月10日の役員校園長会での報告後、3月の校園長会および副校園長会において全ての区立小中学校、区立幼稚園に周知する。
- ・本改定プランは、C4thの書庫にも格納する予定である。

5 閉会